

時の鐘の発掘調査 発見された玉石と穴

市指定文化財「時の鐘」は平成27年度から同28年度に耐震化工事を行いました。平成27年度の基礎工事に伴い実施した発掘調査で

は、新たな発見がありました。東西の中柱近くでは、縦横が60cm弱、厚さが約30cmの大きな玉石がそれぞれ見つかりました。玉石は現在使われていないことから、先代以前の時の鐘を支えていた可能性があります。



東中柱と出土玉石(南側から)

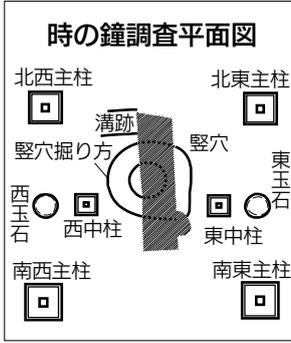


堅穴(上から)



被熱した堅穴内壁

また、調査を進めると土で盛った基礎の中央付近から、直径約82cmの丸い堅穴が見つかりました。瓦を転用して構築された内壁は真っ赤に焼けていたため、火災の痕跡と思われる。穴の用途は不明ですが、江戸時代の地誌「川越索麵」の記述から、火事の際に鐘を降ろして収納する穴蔵であった可能性があります。



時の鐘調査平面図

このような地誌の記述を裏付けるような穴や、昔の時の鐘の姿をうかがわせる玉石の発見は、発掘調査ならではの成果です。



「周りの人がやっていない新しいものに挑戦したかったんです」と話すのは笠幡でモモの栽培をしている荒井秀雄さん。会社員として働きながら、定年を前に何か新しいことを始めたいと思い、市内では珍しいモモの栽培を始めたそうです。

モモの栽培は大変手間がかかります。5月になると家族や親戚、かつての会社の仲間の手を借り、ピンポン玉ほどの実に袋をかけ、直射日光や気温上昇による黒ずみなどを防いでいます。また、収穫期には甘い匂いに誘われて、アライグマやハクビシンが来るため、電気柵を設置するなどの対策

モモ

をしています。

「手間と愛情をかけることで表面が濃いピンク色になり、大きく丸みを帯びたおいしいモモができるんですよ」と荒井さん。

お客様の喜ぶ顔をやりがいにしている荒井さんのモモは、木になっているものを、その場で選んで購入できます。旬は7月上旬から8月中旬まで。まさにとれたての新鮮なモモを、ぜひ味わってみませんか。



この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜

トマト、キュウリ、ナス、エダマメ、トウモロコシ、ゴボウ、ウリ、オクラ、コマツナ、タマネギ、モロヘイヤ



火鉢の中では1、2年間は育ちませんが、火鉢ごと池に入れ、火鉢を割ると、翌年からすぐに咲き始めたとのこと。今では、池一面を覆いつくす程のハスを見る事ができます。今年は咲き始めが早いため7月中旬までが開花のピークだそうです。朝の散歩に、満開のハスを見に出掛けてみてはいかがでしょう。

善

長寺のハスは、長喜院(幸町)からもらった古代ハスの種を火鉢に入れて育てたのが始まりだそうです。火鉢の中では1、2年間は育ちませんが、火鉢ごと池に入れ、火鉢を割ると、翌年からすぐに咲き始めたとのこと。今では、池一面を覆いつくす程のハスを見る事ができます。今年は咲き始めが早いため7月中旬までが開花のピークだそうです。朝の散歩に、満開のハスを見に出掛け

夏

が本格的になるころに咲き始めるハス。早朝、川越水上公園の近くにある善長寺(豊田本)へ。撮影した時は、つぼみが多かったのですが、ピンク色をしたハスの花を発見。水面から細い茎が伸び、りんと咲いている様子に、見入ってしまいました。

編集後記

どんぶり